

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Innovation Center Harima 建設工事	階数	地上4F
建設地	兵庫県たつの市揖保川町馬場字西	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 予定	評価の実施日	2021年9月27日
敷地面積	6,634 m <sup>2</sup>	作成者	中山 晃都
建築面積	1,870 m <sup>2</sup>	確認日	2021年9月27日
延床面積	6,066 m <sup>2</sup>	確認者	大岩 大志



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.4**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> たつの市に新築される事務所の計画である。建物軸方向を検討し、良好な景観・熱環境となる建物配置となるよう計画した。音・熱・光・空気質環境に配慮し建物利用者の快適性を図ると共に省エネ・省資源により環境負荷低減に配慮した計画となっている。		<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 遮音性能、吸音性能、外皮性能、光環境に配慮し利用者の快適性向上を図った。化学汚染物質を含まない材料の選定や十分な換気量の計画により、空気室環境を高め健康性にも配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 十分な天井高さやリフレッシュスペース、内装計画に配慮し心理的快適性向上を図った。また高い耐震性や耐用年数の長い材料採用で耐久性を向上すると共に、階高等にゆとりをもたせフレキシビリティ向上に努めた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 既存樹木利用等により敷地内の生物資源の保護に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 適切な外皮性能と高効率設備採用により省エネルギーに配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型機器採用、材料使用量削減への取り組み、リサイクル材の採用により省資源に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 排出量削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される